

JISL 1920(繊維製品の防ダニ性能試験方法)が改正されました!

今般、JIS L 1920が改正され、通過防止試験がJIS法として追加されました。

今回の改正により、ISO21326:2019「Textiles – Testing methods for determining the efficiency of products against house dust mite (繊維製品の防ダニ性能試験方法)」との整合化が図られました。ポーケン法(「通過防止性評価」ポーケン規格BQE B013)として多くの運用実績を踏まえ、ポーケンからも委員としてJIS改正に参画いたしました。



改正JIS通過防止試験及び通過防止試験ポーケン法比較表

JISL1920 : 2022	JIS L1920:2007	ISO21326 : 2019	ポーケン法BQE B013
忌避試験	忌避試験	忌避試験	—
増殖抑制試験	増殖抑制試験	増殖抑制試験	—
NEW 通過防止試験	—	通過防止試験	通過防止試験

それぞれの規格の構成だよ!



※忌避試験及び増殖抑制試験については、規格の構成上の変更がありますが、試験方法には変更はございません。

通過防止試験の比較	NEW JIS L 1920:2022 (ISO21326 : 2019)	BQE B013
主な試験器具	両切りガラス管	スチロール製サンプル管 (片面開口)
試験条件	25°C±2°C、75%±5%	25°C±2°C、75%±5%
試験方法の概要	<p>ガラス管の開口部に試験片を取り付け、その上面をラップ等で被覆する。ダニ培地(ダニ数約10,000匹)を投入後、もう片方の開口部に濾紙を接着し密封、24時間後に這い出して来たダニの数をラップ上から観察。</p>	<p>スチロール製サンプル管にダニ培地(ダニ数約30,000匹)を投入後、開口部に試験片を取り付け、固定。24時間後に這い出して来たダニの数を計測。</p>
標準布による確認	成立条件を満たすことを確認するため、試験ごとに必要。	—
ダニ計測	プラスチックフィルム越しに、試料上のダニを、生育ステージ(幼虫及び若虫、成虫)毎に計数	サンプル管の外側にいるダニを計数 ・試料上のダニは粘着テープで回収 ・瓶の外側は、水洗い法にてダニを回収し、計数。生育ステージは分けない。
試験報告書への記載事項	標準布・試験試料ともに同様の作業を行い、いずれのデータも報告書に記載	試験試料における結果のみ記載

防ダニ試験の種類と目的

防ダニ性評価における試験の種類とその評価の目的や対象となる商品について記載いたしました。今後ご依頼される際の一助となれば幸いです。



忌避試験	増殖抑制試験	通過防止試験
ダニが試験片に近付きにくいを確認	ダニが試験片上で増殖しにくいを確認	生地を目開きを小さくすることで、ダニが物理的に出入りにくいを確認
侵入阻止法:カーペット、布団側生地など ガラス管法:ふとんわた、羽毛など	A法:カーペット、布団側生地など B法:ふとんわたなど	布団側生地、マットレス表生地など

上記の内容についてご不明な点等ございましたら、こちらまでお問い合わせください。